

令和5年度 第1回学校運営協議会（記録）

1 日時 令和5年5月16日（火）10:00～12:00

2 参加者 学校運営協議会委員
・門池地区連合自治会長 様 ・さんしんハートフル株式会社人材開発部主査 様
・沼津市手をつなぐ育成会顧問 様 ・愛鷹分校PTA会長 様
・校長、高等部主事、教務主任

3 当日の内容

① 授業参観

- ・1・2年生 ワーク工房（校内作業）
- ・3年生 総合

② 今年度の取組について

- ・つながりを大切にするため、人権に関する教員研修を行い、道徳の授業充実、社会ルールの確認（スマホの使い方）などを行っていく。
- ・11月30日に開校10周年記念式典を行う。生徒たちと一緒に作り上げていく。

③ 協議 〈○：委員 →：学校〉

地域と共にある学校づくり

- 地域と学校が負担にならないようにしながら良い関係性をもっていきたい。
- 10周年、花壇、スローガンなど、学校の取組は着実に進んでいる。
- 地区とのかかわりとして、地区祭り、防災教育などは調整しながら進めていくが、その他にも地区センターが10年になることから、展示などで生徒の活動内容を知らせることもできる。
- 11月に育成会行事を行うが、分校として参加してもらうことは可能。
- 10周年アピールとして、より多くの人に知ってもらえるようさんしんハートフルを通じて掲示をすることができる。

今年度の取組について

- 人権は、様々なジャンルにわたっている。配慮や差別をなくすという視点でそれぞれのジャンルで目標をもっていくことが大切。

授業について

- 布工房では、1年生が「楽しい」「できるようになってうれしい」と言っている姿が印象的だった。
- 「働く」の意識は薄れていってしまいがちなので、「自分だったらどうする」という視点で考えたり振り返ったりすることは大切。

生徒の自主性について

- 高校生として、社会のルールを守ることは大事だが、校則の見直しはどのように考えていくのか。
- 教員から提案するのではなく、生徒自身から出てきたことを一緒に考えられるようにしていく。制服の見直しも来年度には選択ができるようにしていく予定。
- 校則を、卒業後の生活と結びつけて考えていく。地域の見守りなど地域との協力の下考えていけるとよい。

○固定観念で良かれと思っていることが、行動を抑制してしまうことがある。本来伸びるものや自由な発想が抑えられてしまうと悲劇である。主人公は「生徒」なので、生徒が考える環境を作るのが地域や学校。こうでなければと決めつけてしまうのは良くない。

→自分たちの校則を自分たちで見直す、生徒と教員が共に話し合っ決めていくことを続けていく。

○企業はコンプライアンスに敏感である。ルールを守らないと起こりうるリスクを説明していく。ただ守りなさいでは意味がない。

○社会人に向けて、自分の将来の目標を立てて進めるといい。目標を自分の言葉にすることは難しいが、自分の強みを伸ばして弱みを自覚することを意識して自分を見直し、目標に向かっていくことが「自立と輝き」につながっていく。

→1年から自分を知ることをはじめとして、目標を立てて取り組むことを積み重ねている。3年で長所を生かしての進路選択を考えるようにしている。

○就労先でも同じように育てている良さがある。

○分校でやっていること（挨拶、話を聞く、相手に話す）が就労先につながっていかなければいけない。社会の一員としての過ごし方で大切なこと。

○障害があることで、周囲が手を出しすぎてしまう傾向はある。自分で考える癖を小さいころから積み重ねていくことを意識していく。自分では長所がわからない部分があるが、周りから見た長所を教えてもらうことで自分から取り組めるようになっていく。

④ 今後の取組

○学校運営協議会としての短期的目標として、今まで出てきた中でできることを選択して継続的にいき、長期的目標に向かっていく。（長期的目標：分校の生徒が門池地区においてよりよい地域とのかかわりを探る）

→短期的目標としては、11月30日に行う10周年式典を成功させること。併せて、門池地区に愛鷹分校がある良さをさらに充実していく。

○門池地区として1年のフィールドワークや、地区センターの草取りなど関わる事ができている。今後の取り組み方を相談しながら形にしていけるよう頑張っていけるとよい。